

議員派遣等成果報告書

総務文教常任副委員長 田村信幸

研修日時：平成30年1月29日～30日

視察場所：佐賀県武雄市立図書館、御船が丘小学校

視察内容：①市立図書館の運営について

②ICTを活用した教育改革について

御船が丘小学校で公開授業への参加

「武雄市ICTを活用した教育」の現状を実際に見て視察又は研修の成果について

那賀町内小中学校ICT機器導入に向けて、ICTを活用した教育改革について先進的な取り組みを展開している武雄市を視察し、今後の教育施策に活かすことを目的に、総務文教委員及び学校教員代表者・教育委員会担当者が参加しました。

視察場所は、全国に先駆けて公立図書館運営を民間（蔦屋書店）に指定管理し、「新しい図書館づくり」を営む武雄市図書館及びタブレット機器を活用した武雄市立御船が丘小学校の公開授業スマイル学習オープンデー参観とその後の市教委との研修がありました。本報告では、今回の主目的である「武雄市のICT教育の現状」について述べたいと思います。

なぜ、ICT教育に取り組むのか？武雄市の考えは明快であります。それは、今後の情報化社会への対応と21世紀型スキルの育成を通して、「生きる力」を育てるためであります。武雄市におけるタブレット活用の中心は、「スマイル学習」と名付けた反転授業であります。児童生徒がタブレットを家に持ち帰り、翌日の授業に関連する予習動画を視聴するとともに、アンケートや確認テストも行うという取り組みです。また、1人1台環境でのICT教育の成果を大学と連携して検証しているとの事であります。公開授業では、児童が電子黒板やデジタル教科書内蔵のタブレットを活用している場面が随所に見られました。今回の研修は、今後本町学校教育にICT機器を導入する際の様々な留意事項や課題等を解決するに当たり、大いに参考となりました。

今、教育現場では明治以来の「黒板とチョーク」というツールだけの時代から、大きな変革が起きています。

その第一が電子黒板とパソコンの利活用、そして第二がタブレットの利活用、そして第三がクラウド等による動画などの教育コンテンツの利活用であります。未来ある那賀町の子どもたちに、私たちは最善の教育環境を整えてあげる責任と使命があると考えます。

